

令和5年11月22日

futbol y vida

Poco a poco ...
Poco a poco ...



2023 選手権はBest8で終了!!
リーグ戦優勝!! 10年ぶりに地区トップ復帰!!

選手権は大成高校に1-5で敗れ聖地:西が丘に一步届かずに終了!!

リーグ最終戦は 2-0 勝利🍀で“優勝&地区トップ復帰”が決定!!

10月26日(土)、選手権大会東京都予選二次トーナメント準々決勝が駒沢補助グラウンドで行われました。ここまで来ると、勝ち残っているチームはどのチームも伝統・強豪校ばかり。都立も東久留米総合と片倉高校の二校だけと、コロナ禍以降東京も全般的に私学優勢の勢力図となっています。



明法戦に勝利してから準々決勝までの間が二週間あり、その間ユースリーグを二試合消化しました。また、20日(日)には静岡まで遠征し清水桜が丘高校(旧清水商業)のセカンドチームと仮想大成高校戦としてTRMを行い、トレーニングは人工芝グラウンドを転々と渡り歩くなど、全てをこの日の勝利のため(聖地:西が丘に立つ)に準備をしてきました。怪我人やコンディションを崩したものもいましたが満身創痍ながらも現状ではベストメンバーで大成戦へ挑むことができました。

<聖地:西が丘まであと一つ>

「聖地:西が丘の芝生に立つまで、あと一つ!!」 VS 大成 キックオフ🍀

片倉高校のキックオフで始まりました。立ち上がり直ぐに今までの二チームとT1チームのスピードの違いを感じました。両サイドの選手の速さは想定していましたが、トップの⑩が予想以上に速く、前半14分の失点の場面では完全に振り切られ置いていかれました。更に20分には「高いディフェンスライン対策をしてきた」と豊島監督(大成)が言っていたように、左サイドバックが右のロングキックに合わせてタイミングよく飛び出しシュートを打たれ、一度はバーに当たるものの跳ね返りを⑩がヘディングで決めて2-0となります。



<心を合わせてゲームに挑む!!>

崩された失点ではありませんが、T1との格の違いを見せつけられた立ち上がりでした。しかし気持ちを切り替えて飲水タイム直後の22分に中盤でボールをカットした熊谷(3年)がドリブルで運び相手を引き付けて歳森(2年)にスルーパスを出し、それを上手くディフェンスラインの裏で受け、最後はGKとの1対1を落ち着いて決め1-2とします。片倉高校らしい形からゴールが生まれると応援席と会場の盛り上がりがベンチにまで伝わり、反撃ムードが一気に高まりました。実力の差はあるものの、ここは高校生同士。決定機を作られてもミスを誘発させるなど、大成の選手に多少プレッシャーをかけることができました。その後はお互いゴールを伺いながらの展開でしたがスコアは動かずに前半は終了します。



<直ぐに一点差まで詰め寄る>

勝負を分けた後半のファースト・プレー(ワンプレー)…。

勝負を決めるワンプレーがあるとしたらこのゲームは後半早々の失点の場面でしょう。後半は、大成高校のキックオフで始まりました。相手のロングボールをヘディングでクリアしたボールは弾道が低くディフェンスラインを押し上げる時間ができませんでした。その間にダイレクトで逆サイドに振られたボールは再び左サイドバックがタイミングよくトップスピードで駆け上がるとプロ顔負けの脚に吸い付くようなボールコントロールを見せ最後はGK小野までかわしシュートを決めます。まさに“ゴラツ!!” (素晴らしいゴール)。まずは同点にしてプレッシャーを与えたかったのですが、先に追加点を奪われリードを広げられてしまいました。そこからは、一進一退の攻防が続きますが、やはりT1リーグに所属している大成高校の方が試合運びは一枚も二枚も上手でした。後半はこちらも形を作りゴールまで迫る回数が増え、鏝迫り合いまで持ち込むことができましたが、後半16分、34分にしっかり追加点を奪われてしまい、結局、**1-5**のスコアでタイムアップ。選手権は**ベスト8**で終了し、残念ながら目標であった『**聖地:西が丘への道**』は達成できませんでした。



＜局面では厳しい洗礼を受ける＞

個々のレベルは歴然!!しかし、チームとして通用することはあった!!

「大成高校は強かった!!」やはり、率直に認めざるを得ないくらい個々のレベル、スピード・パワー・スキルは高くそして正確でした。両サイドの二人の速さは前評判も高く想定内でしたが、トップの**⑩舟山選手**の一瞬でトップスピードに乗りDFを振り切って決めた先制点には正直驚きました。さすが、一年生からベンチ入りしていた逸材だけあります。大成高校には有名な街クラブのジュニアユースからいい選手が集まり、この日ゲームキャプテンを務めた**⑥**やセンターバック**⑨**、トップ下の**⑦**などはその代表です(この日は左サイドバックにやられましたが)。中には、GKの**山本選手**(昨年度の国体選手)やボランチの**⑧佐藤選手**のように高校から成長してレギュラーを獲得した選手もいます。100名の部員で日々切磋琢磨している環境が成せる現象です。

さて、ゲームを通して選手個々の差は感じましたがチームとして通用する部分もありました。片倉高校で三年間日々取り組んできたコンビネーションによる崩しやセットプレーのアイデア(かなり警戒されていました)、ヘディングの競り合いや球際の攻防(闘い)、80分間走り切れるタフさやスタミナは、T1相手にもやれたという手応えは子どもたちもピッチ上で感じたと思います。また、昨年度から守備面で取り組んできたボールを積極的に奪いに行く『**アタッキング・ディフェンス**』は、昨年の代表校**国学院久我山高校**相手には全く通用せず“**木っ端微塵**”に粉砕されて大敗しましたが、その敗戦から学び得たことは多く、今年度の新たな“**K's football style**”のベースとなっています。片倉のサッカーは“攻撃重視”のイメージが強いようですが、守備面でもボール中心に積極的にアプローチしていき、**プレッシングーコンパクトーハイラインーGKのポジションを高く設定**してボールを奪いに行くことを徹底させています。とてもリスクが高く、「**諸刃の剣**」のように見られますが、「攻守とも常に攻撃的にいく」という考え方のもと、一貫してトレーニングやTRMでチャレンジしてきました。もちろん、上手く行かないことも多々ありましたが、その都度“試行錯誤”を繰り返してここまで創り上げてきました。選手権では組み合わせの関係もあり**ベスト8**に進出できましたが、T1チームと互い合えるようになるには個々の差は埋められませんが、もっともっと走って・鍛えてチーム力で闘える為の土台のトレーニングが必要だという現実を受け止め**51期生**に繋げていきます。



新たな攻撃的GKスタイルも示せた

2023' 地区ユースリーグ一部優勝!! 来年度は10年ぶりに地区トップリーグ復帰!!

選手権準々決勝敗退から三日後、地区ユースリーグ最終戦 VS 大成C が行われました。ここまで首位に立つ片倉高校は7勝1敗勝点21、二位の大成高校Cは6勝1敗1分勝点19。レギュレーションの関係で片倉高校は最終戦前に地区トップリーグ復帰は決まっていたましたが、この日引き分け以上で優勝、負ければ昇格はできませんが大成高校Cが優勝となります。選手権で大成高校には敗れているだけに、チームのプライドをかけて同じチームに二回連続で負けるわけにはいきません。優勝して堂々と地区トップリーグ復帰を決めたいものです。怪我人の関係で、選手権メンバーと入れ替えもありましたが、優勝を懸けた首位攻防戦はモチベーション高く臨めました。

前半から片倉高校が攻勢に出ますが、大成高校GKのファインセーブや粘り強いDF陣に阻まれゴールを奪えませんが、それでも前半12分小林(3年)と前半40分歳森(2年)が大成ゴールを挟み開けて2-0で折り返します。後半は、追加点こそ奪えませんでした。終始危なげないゲーム運びでタイムアップ。リーグ戦優勝を決めるとともに、来年度は10年ぶりに地区トップリーグに復帰しワンランク上の闘いに挑みます。



<最終戦は絶対に負けられない闘いであった>

四年前に片倉高校に来て一番驚いたのはトップチームが地区リーグ二部にいたことでした。嘗て地区トップリーグに所属していたチームがここまで落ち込み低迷していたのは想定外で正直困惑しました。Tリーグ昇格どころか地区トップリーグ復帰に最短でも三年かかります。しかも、片倉高校の現状を見ると手始めに高校サッカーのスタンダードを指導するために、根本から立て直すには多くの時間が必要でした。一年目は新型コロナの影響で公式戦が制限されリーグ戦が実施されませんでした。二年目は、こちらの指導が浸透し始め二部リーグを優勝して一部復帰。昨年度は、やっと本腰を上げた大成高校Bが優勝し、今年の再チャレンジとなりました。正直、今年度は勝負の年だったのでユースリーグ優勝はチーム目標ではありましたが“絶対”でした。

リーグ戦は年間を通しての闘いでありチーム力を推し量る指標=真のチーム力である!!

高体連主催の公式戦は年三回あり全てトーナメント方式。負けたら終わりの一発勝負でその日の調子や運も勝負に影響します。それに対してリーグ戦は年間10試合(T1・T2は18試合)をコンスタントにコンディションを整えてチーム力を維持しながら闘っていかねばなりません。一年間を通して好不調の並みが小さいほどいいチームと言えます。もちろん前年度の結果(選手の力)が次年度のスタートポジションになります。リーグ戦では、一年間レベルの高いチームと真剣勝負できるメリットがあります。リーグのレベルが上がれば上がるほど厳しい闘いを強いられませんが、その分選手たちは揉まれ成長しチーム力の向上が顕著に現れます。

2023年度 第7地区ユースリーグ 一部

※グループ代表: 調布南(山田)

2023.10.31

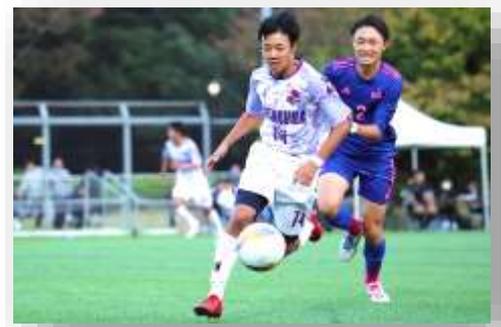
	調布南A	片倉A	松が谷A	Raiz Chofu F.C. U-18	法政大学	アローレハ王子 U-18	立川A	大成C	昭和第一学園B	明星学園B	勝点	勝	分	負	失点	得失差	順位		
調布南A	※	● 1-3	△ 1-1	○ 2-0	● 1-3	● 0-3	△ 1-1	△ 0-0	○ 1-0	● 0-2	9	2	3	4	9	7	13	-6	8
片倉A	○ 3-1	※	● 2-3	○ 2-1	○ 5-0	○ 8-0	○ 7-0	○ 2-0	○ 11-1	○ 4-2	24	8	0	1	9	44	8	36	1
松が谷A	△ 1-1	○ 3-2	※	△ 0-0	○ 2-1	△ 1-1	● 1-3	● 1-6	○ 4-2	△ 0-0	13	3	4	2	9	13	16	-3	5
Raiz Chofu F.C. U-18	● 0-2	● 1-2	△ 0-0	※	○ 3-0	○ 3-0	● 1-2	● 1-4	○ 8-1	○ 4-0	13	4	1	4	9	21	11	10	4
法政大学	○ 3-1	● 0-5	● 1-2	● 0-3	※	● 1-3	△ 2-2	● 0-7	● 1-3	△ 3-3	5	1	2	6	9	11	29	-18	10
アローレハ王子 U-18	○ 3-0	● 0-8	△ 1-1	● 0-3	○ 3-1	※	● 2-3	○ 3-2	○ 1-0	○ 7-2	16	5	1	3	9	20	20	0	3
立川A	△ 1-1	● 0-7	○ 3-1	○ 2-1	△ 2-2	○ 3-2	※	● 1-3	● 1-2	● 1-2	11	3	2	4	9	14	21	-7	6
大成C	△ 0-0	● 0-2	○ 6-1	○ 4-1	○ 7-0	● 2-3	○ 3-1	※	○ 1-0	○ 3-1	19	6	1	2	9	26	9	17	2
昭和第一学園B	● 0-1	● 1-11	● 2-4	● 1-8	○ 3-1	● 0-1	○ 2-1	● 0-1	※	● 0-1	6	2	0	7	9	9	29	-20	9
明星学園B	○ 2-0	● 2-4	△ 0-0	● 0-4	△ 3-3	● 2-7	○ 2-1	● 1-3	○ 1-0	※	11	3	2	4	9	13	22	-9	7

来年度は10年ぶりに地区トップリーグに復帰しますが、現状のチーム力では厳しいので冬はいつも以上にガッツリ走って強豪校に喰らい付いていけるように頑張りたいと思います。

尚、三部リーグは序盤戦の不調が響き残念ながら最終順位は二位でした

<2023年度 第7地区ユースリーグ一部 結果>

2023 選手権予選準々決勝 VS 大成 SNAP !!



-2023 Team Katakura-

『🏆聖地:西が丘への道🏆』

選手権は**ベスト8**まで…。

“夢”の続きは**51期**に託す!!

たくさんの応援ありがとうございました!!

“勇猛果敢”に闘うことができました!!



<After the Game>

2023' 選手権予選と地区ユースリーグ戦の全日程が無事に終了し、今年度のチーム目標である「選手権**ベスト8**」と「地区**トップリーグ復帰**」の二つを達成することができました。全て子どもたちへの多大なサポートのお陰だとスタッフ一同感謝しております。ありがとうございました。

選手権二次トーナメントを勝ち上がるごとにSNS等で取り上げられ、高校サッカー界では無名の片倉高校サッカー部が一瞬ですが少しだけ注目が集まり取材を受けることもありました（そのお陰でいい写真をたくさん分けていただきました）。また、試合ごとに応援席の賑わいを感じ、保護者や同級生だけではなく、嘗ての教え子たち（30年ぶり？に再会しました）や旧友たちとも会え、まさに同窓会をグラウンドでやっているようでした。サッカーを続けていると時にはこんな嬉しいご褒美も舞い降りてきます。実質、片倉高校で指導をして四年目。ここまで来るまでにはいろいろなことがありました。「敵は本能寺（片倉）にあり」には正直参りました（もういませんが…）。また、出る杭が中途半端であると打たれてしまいます。指導者として学ぶことの多い四年間でした。さて**50期生**は26日（日）に節目の試合があります。怪我人も合流し三年間の思いを込めてプレーして欲しいと思います。



<タイムアップの笛は次へのキックオフ>